

# 更級への旅

松尾芭蕉が歩いた 更級紀行街道の今・その七

シリーズ95で俳人、松雄芭蕉が長楽寺を訪ねるときに歩いたとみられる「オバステ近道」のことを書きました。その後、稲荷山地区（旧更級郡稲荷山町）の文化施設「蔵し館」を訪ねたところ、江戸時代までの当地の古道の姿を記録した地図を見つけました。この地図には、ことしの春先、千曲市川西地区振興連絡協議会（会長和田茂勇さん）のみなさんが復元してくださった道とほぼ同じルートが記されています。左の写真です。

赤い線が当時の道で、一番左、北に伸びる道が「善光寺街道」です。「火打石」と書かれたスポットから東つまり右に向かって道が伸びているのが「オバステ近道」です。沢や川を意味する青い線を横切っており、シリーズ95で書いたように、江戸時代までの人も、やはり沢の音を聞きながら旅したわけですね。

月見をしたことになりました。▽地図製作の名人  
地図を作ったのは八幡村峯地区生まれの坂口白逸さんです。「更級郡埴科郡人名辞書」によると、白逸さんは隣村、桑原村の池内墨潭さんから書と製図法を学び、測量地図製作の名人でした。シリーズ32でも紹介しましたが、俳句の実力者でもあり、長楽寺の境内には「わが心月にみがかや山の上」の句碑があります。

## 坂口白逸さんの文化遺産地図

この地図には、ことしの春先、千曲市川西地区振興連絡協議会（会長和田茂勇さん）のみなさんが復元してくださった道とほぼ同じルートが記されています。左の写真です。

図に載せました。長楽寺は姨捨駅の右、「ヲバステ」と記された地点で、岩とお堂の絵が添えられています。オバステ近道に沿って芭蕉が歩いたとすると、現在の杉ノ木地区を通り姨岩に到着したことになります。農作業用のわき道もあったと思います。芭蕉は杉ノ木地区を通過して当地で

発行 二〇〇九年九月二十六日  
編集 さらしな堂  
（代表・大谷善邦）  
〒三八九・〇八二三  
長野県千曲市大字若宮二一八四・六  
（旧更級郡更級村）

▽芭蕉は杉ノ木地区を通過？  
明治十五年（一八八二）年、稲荷山町に郵便電信局が開設した際に、管轄の稲荷山町、桑原村、八幡村、更級村の一町三村を地図にしたものです。「更級郡稲荷山郵便電信局郵便

い地図です（写真の上部は黄色の部分は稲荷山町、それ以外は桑原村、中央の黒茶色・八幡村、その下の茶色・更級村）。  
姨捨駅が設置されたのが明治三十三年（一九〇〇）。まだその様子はうかがえません。江戸時代まで人間や牛馬が歩いた古道が、ここにそのまま記されていると思います。



江戸時代までのオバステ近道